

公益社団法人私立大学情報教育協会  
平成26年度第2回情報教育研究委員会議事記録

I. 日 時：平成26年11月21日(金) 17:30~19:30

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 参加者：向殿担当理事、斎藤委員長、西垣委員、大場委員、岡田委員、大原アドバイザー  
事務局：井端事務局長、野本（記）

IV. 検討事項

1. フォーラムの開催に向けて委員の意見

- ・ 2回実施したが、一方的な形式だったので、学生も入れて視点を整理してはどうか。
- ・ 28年1月の開催に向けてコンセプトを考えていきたい。
- ・ 情報は知らないうちに使っているところまで来た。情報技術の現在と将来についてそれぞれの分野でどのようになっているか考えてはどうか。
- ・ ネット上で、このようにすれば直接民主主義が実施できるのか。プロが公平な立場で、例えば消費税の説明、フィードバック、プロセスを説明する、ナビゲートするなどのシステムが必要になってくる。ネットでの投票は、コントロールが必要だが、テーマとしては良いのではないか。
- ・ 政治、ビッグデータ、芸術、スポーツ、教育、医療などを政策的に考えてはどうか。
- ・ 社会の課題、産学官の設計図の中で社会に出て、自らの役割や夢の強化に役立てる必要がある。
- ・ 未来の設計図に向け、環境問題の課題、安心安全へセキュリティの担保など必要ではないか。人口などの世界・社会的な問題。
- ・ 興味を持つと思われる、3Dプリンタ、ロボットなどを取り上げてはどうか。
- ・ 情報系に人気がないこと、ツールの話が多いが、社会の構造・機能にふれる必要がある。何を作りたいのか、何をしたいのか整理させる。それが現状は抜けているのではないか。プログラムを作成しなくて良いなど簡単にできるレベルで、要求仕様から入る考え方。
- ・ 抽象論ではフォーラムには見に来ない。バラエティある中で、魅力あるアプリを出す必要があるのではないか。
- ・ システム設計は具体的なところが分かりやすいが基礎も必要となる。モチベーションを高めれば自ら学んでくる。
- ・ 新たな情報教育が日本の将来を決める。情報とは何か、全てのひとが身に付けるべきものとなる。情報をコンピュータに直結することなのか、情報とは本来何かを考えさせてはどうか。例えば、スマホはLINE端末になっているが、それが情報社会なのか。
- ・ クリエイティブにかんがえること、手段の前に問題から入ってみる、そこにどのように情報産業は寄与できるのか。プログラミングも大切ではないか。
- ・ 若者にどのような意識で主体性を持った人生をおくれるか、情報の土俵で考えもしなかったことをインスパイアしたい。
- ・ ポイントとして、政治、芸術、医療など身近なものでメッセージを出して、スマホはLINEの端末ではないことを実感してもらってはどうか。安心安全に利活用する。上手く使って社会の安全にどのように活かすのか。
- ・ ワクワクする新しい未来社会の可能性、イノベーション、発想力、データを活用して価値の創出が必要になってくる。
- ・ ネットワーク時代で心をつかむもの、ビッグデータと環境のつながりなど夢のある方向としたい。将来的に情報技術はすごいことになっている、それによってできていることをハッキリ説明をしてはどうか。
- ・ どのようなコンセプトで、どのような方に講師をお願いするかを次回は検討することにした。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回の委員会は、3月30日17時とした。（後日、開催は延期とした）